

一般財団法人 英語教育協議会

令和6年度（2024年度）事業報告

1. 総論

令和6年度をELECの「持続可能化への出発点」と位置付け、さまざまな改善・改革を行ってきた。売上計画は達成したが、既存事業（特に録音事業部の教材録音制作）の減少、人件費、労務費、委託費等の高騰により予算以上の大幅な経費増となり、収支は計画に達しなかった。

また、令和6年度より積極的に公募案件への応札にチャレンジして、一定の成果と知見を高めることができた。公募案件受託は今後も拡大させて、収益の柱のひとつとしたい。

収支はマイナスだが、職員ひとりひとりの経営マインドは着実に進化しており、ELECの赤字体質解消は数年以内に可能であると考えている。

実行した主な施策は次の通り。

- ・事業計画の策定と月次での予実管理
- ・組織風土改革プロジェクト「ELEC Challenge 2024」の遂行
- ・「研修。教育事業本部」の設置
- ・就業規則等の整備（英語翻訳等）
- ・新人事評価制度「目標達成面接 ELEC Challenge Personal 2024」の実施
- ・外部専門家による職員研修（今年度は「ハラスメント研修」）
- ・『えいごネット』リニューアル（令和7年6月稼働予定）
- ・研修公募案件への積極的な応札と受託
- ・AI活用のためのトライアル（AI音声、業務効率化、論文要約等）

2. 各事業の事業報告

(1) 英語教員研修事業

公益事業として、英語教員やALT向けの研修会、各地への専門家派遣を行っている。

令和6年度の売上は約1,980万円、対前年比+654万円で推移した。各研修会の講座数増による受講者増、大型研修受託などにより対前年比で大幅な増収となった。一方、これまでELECの伝統であった「対面研修」の伸びが鈍化してきており、受講者は増加したものの、想定数には至らず講座単位での収支は悪化、収益面ではマイナスとなった。また、小学校教員向けの研修会は、受講者のニーズが変化してきており、受講者減となった。

令和7年度はオンライン研修の強化による受講者増を図るとともに、研修会の内容についても新味を加えていく。

① ELEC英語教育研修会(The ELEC Seminars for English Teachers)

令和6年度の実施概要は次の通り。

夏期： 8月18日～8月24日（オンライン）	受講者数： 69名
7月25日～8月16日（対面）	受講者数：345名
冬期：12月25日～12月27日（対面）	受講者数： 65名
春期： 3月26日～3月31日（対面）	受講者数：177名
合計：656名（前年514名）	

なお、昭和32年以来の受講者累計は **27,039**名となった。

② ELEC小学校英語教育workshop

令和6年度は、下記の日程で講座を設定した。

夏期： 8月19日～8月21日（対面）	受講者数：41名
冬期： 12月26日（オンライン）	受講者数： 8名
12月27日（対面）	受講者数：14名

春期： 3月29日～3月31日（対面）

受講者数：30名

合計：93名（前年125名）

③ 英語授業改善のための専門家派遣（ELEC出前研修）

学校（小中高）・教育委員会・教育団体等での研修会において研修講師（日本人講師・外国人講師）を派遣し、授業経験・研修指導経験の豊富な英語教育指導者が、実際の授業を踏まえた研修、指導助言、フォローアップを行った。

令和6年度の実施概要は次の通り。

・公益財団法人 東京都私学財団（対面）：

3日間（6時間） 受講者数202名

・CLAIR ALTハイレベル研修（オンライン）：

4日間（22時間40分） 受講者数延べ867名

・文部科学省 JETプログラムによる外国語指導助手来日時研修（対面）：

3日間（9時間） 受講者数 1731名

以上3件

（2）英語教員支援事業

公益事業として、「ELEC英語教育賞」、「ELEC英語教育賞授与式・特別講演会」、「英語教育ポータルサイト『えいごネット』」の各事業を行っている。

純粋な公益事業のため、売上はゼロである。

① ELEC英語教育賞

「ELEC英語教育賞」は、学校としての優れた取り組みを表彰の対象とし、「文部科学大臣賞」と「ELEC理事長賞」が授与される。授与式と特別講演会が毎年3月に開催される。令和6年度の受賞対象校は2校となった。

・文部科学大臣賞：神奈川県川崎市立有馬中学校

受賞取組名：新たな可能性を求めて学び合い、積極的にコミュニケーションを取ろうとする生徒の育成～PDCAサイクルの繰り返しを通して～

・ELEC理事長賞：東京都渋谷区立幡代小学校

受賞取組名：児童がいきいきと楽しく英語を学ぶ工夫

② ELEC英語教育賞授与式・特別講演会

今年度は、受賞校関係者に加え、少数の来場希望者を会場に招いて実施した。ライブ配信は行わず、後日、YouTubeにて当日の模様をオンデマンド配信した。

・開催：令和7年3月8日（土）

・受賞校取組講評：ELEC英語教育賞選考委員長 吉田研作氏

・特別講演：松永大介（大阪学院大学教授）「心に響くことばを紡ぐには」

③ 英語教育ポータルサイト事業

英語教員のためのポータルサイト『えいごネット』は文部科学省の依頼を受けて制作し、公益事業としてELECが主体的に運営している。月間PVは約14万である。

英語教育の一層の充実を目指す教員のため、英語を使う機会の拡充や生徒の英語学習のモチベーションの向上、ALTやICTの効果的な活用、英語教員の英語力・指導力の強化、新学習指導要領に即した指導法、各種（他団体）イベント案内等についての情報提供を定期的に行っている。最もアクセスの多い「やさしく読める英語ニュース」は隔週のサイクルで更新を行っている。サイト制作会社の廃業にともない、リニューアルを行う。（令和7年6月リニューアルオープン予定）

（3）一般研修等事業

公益事業として、自治体、大学等からの委託を受けて各種の英語講座を実施している。今年度は、対面授業が主流となり、クライアントの要望に応じて、オンライン方式または対面方式の両方式での実施となった。

令和6年度の売上は約7000万円、対前年比約-200万円で推移した。受託した大学の英語

講座が、履修者減により開催前キャンセルとなる事案が発生したため、期首から売上減となった。それを補うため、官公庁の英語教育講座を受託して実施した。

令和7年度は既存顧客に加えて新規開拓を行い、公募案件にも積極的に入札していく予定である。

① 大学向け英語講座

大学からの受託講座は、当年度は対面授業が主流となった。オンライン講座が一般化してきた状況を鑑み、主に地方の既存及び新規顧客を対象にオンライン講座と対面授業を組み合わせた講座の提案を行い実施した。講座実施以外では学内の留学審査の補助業務を実施した。既存顧客については収益の観点からさらに見直しを行い、委託料や実施時間について交渉を重ね、改善を行った。一方、大学側の都合（生徒が集まらない等）により、契約していた講座が不開講（キャンセル）となる事案が複数発生し、収益面でマイナスとなった。

② 官公庁・企業向け英語講座

令和6年度は、積極的に公募案件に応札した結果、関東管区警察局的「英会話初級研修」、警察庁の「英会話上級研修」を受託、実施した。企業向け研修では継続してビジネス英語研修、新人英語研修を実施した。

（４）教材作成等事業

収益事業として、主に語学教育用の録音教材コンテンツ制作を行っている。

今年度の売上は 約1億6,583万円、対前年比+241万円で推移した。CDメディア制作が大きく伸びた（+750万円）。一方、録音教材制作はマイナスとなり、収益ではマイナスとなった。（CDメディア制作は完全外部委託となるため、ほとんど収益は出ない。）新しい動きとして、教材録音以外の業務が増えた。これまでは出版業界が主要顧客であったが、今後はほかの業界へも活動の幅を広げていく。

① 録音教材作成事業

今年度のトピックとしては、

- ・昨年にひきつづき、教材録音/編集以外の業務の受注が増加した。この傾向は今後も続くと思われる。新しいクライアントとして、開拓に注力していく。

例：動画（＋音源）制作、教材用AI音声制作、美術館・博物館館内ガイド音声制作、放送局の過去音源の再編集、「大阪・関西万博日本館」の外国人向け案内ガイド音声制作、「ひめゆり平和祈念館」の音声ガイド制作 等

- ・英語以外の言語の音声制作が増えた。（中国語、韓国語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、ウクライナ語、アラビア語、ベトナム語 等）

② 出版教材作成事業

令和6年度の書籍の売上は、既刊本の注文がなかったため、ゼロであった。

令和7年度は、ELECの認知度向上を目的として、かつて発行していた『英語展望』を単発で発行し、教員、教育機関、学会等に配布する予定である。

（５）新設３部門の事業報告

① ELEC英語教育研究所

ELEC英語教育研究所は、ELECがこれまで蓄積してきた幅広い知見をさらに深化させ、公益に資することを目的とする。主な活動領域として英語教育へのアプローチの探求、外国語教育に関する調査、研究、情報の提供に重点を置く。

令和6年度は①日本の言語教育政策 ②テストと評価 ③リメディアル教育 ④教科横断型授業 ⑤反転授業（flipped classroom）をテーマとし、「研究・レポート」という形で研究の成果を発信した。

・研究・レポート

英語教育の改革・改善と質的向上を目指し、日本の英語教育のあるべき姿を考える場として、専門家による評論や学校取組紹介等をELECウェブサイト上に月1回の割合で掲載する。「日本の英語教育向上に資する活動」を担う本来のELECの役割を果たすべく、現職教員に向けて研究意欲を高める狙いで掲載していく。

令和6年度に掲載した記事の詳細は下記の通り。

- ・学校取組紹介：2 篇
- ・エッセイ：3 篇
- ・評論：1 2 篇
- ・インタビュー動画：4 本

② 広報・宣伝チーム

広報・宣伝チームはELECの情報発信力強化、ブランド力向上、事業問合せへのアクセス増を目的とする。主な活動は、WEBサイト、SNSでの広報活動、PR TIMESなどを利用したプレスリリースの配信、各種宣材の作成などに重点を置く。

令和6年度の活動としては、『ELECウェブサイト』の運営、『えいごネット』のリニューアル、各種英語教育関連イベントへの参加、展示用の宣伝資材の制作、SNS発信、教員研修会の広報活動強化などを行った。

③ 新企画開発プロジェクト

ELECの新たな収益事業企画を検討することを目的とする。また、ELECの事業拡大のために必要な事業横断型の企画提案も検討する。

令和6年度の活動としては、夏休み子供向けナレーション（アフレコ）体験会、SNSを活用したELECのファン獲得戦略立案、『えいごネット』のリニューアルに向けた新規提案などを行った。

（6）英語村事業

東京都英語村の運営主体であるTokyo Global Gateway（TGG）は、これまでの実績が評価され、来場数が増加し、単年度黒字となった。

ELECとしては、運営コンソーシアムの一員として、令和5年度同様、ベテランのフルタイム講師をTGGに出向させ、お台場および立川のTGGにおける外国人スタッフの管理サポート、およびプログラムの品質維持に貢献した。

以上